

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

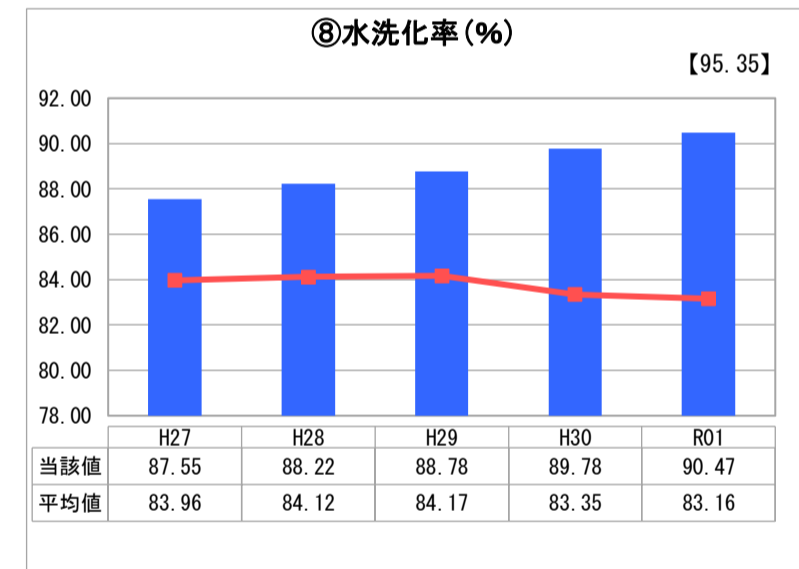
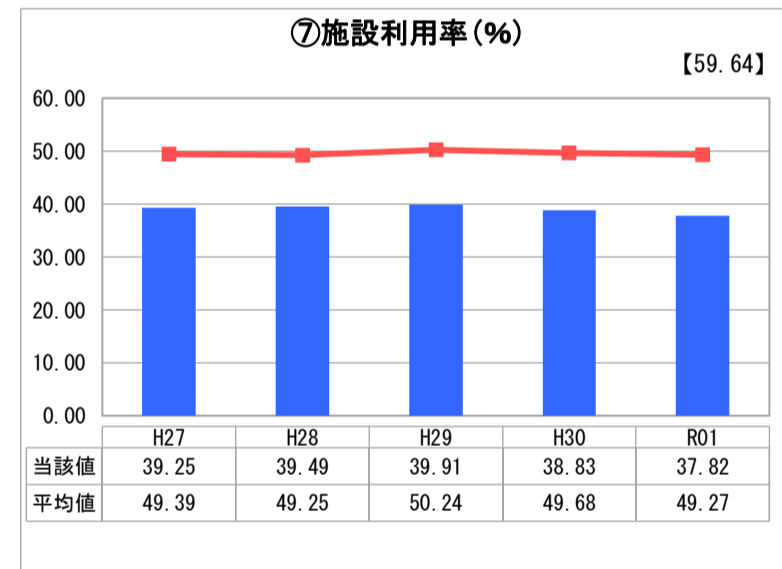
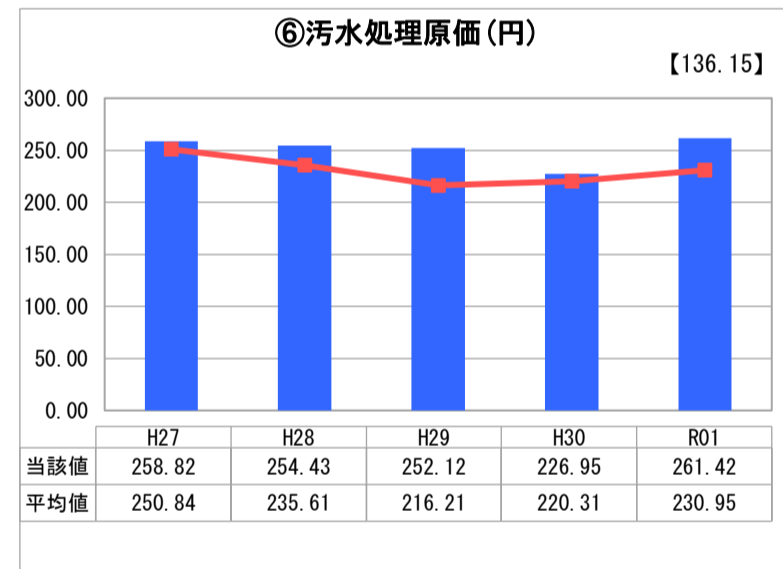
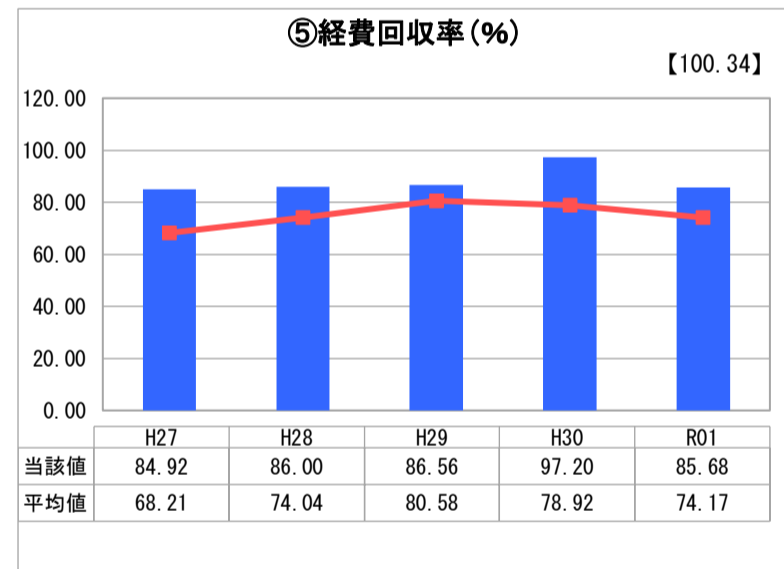
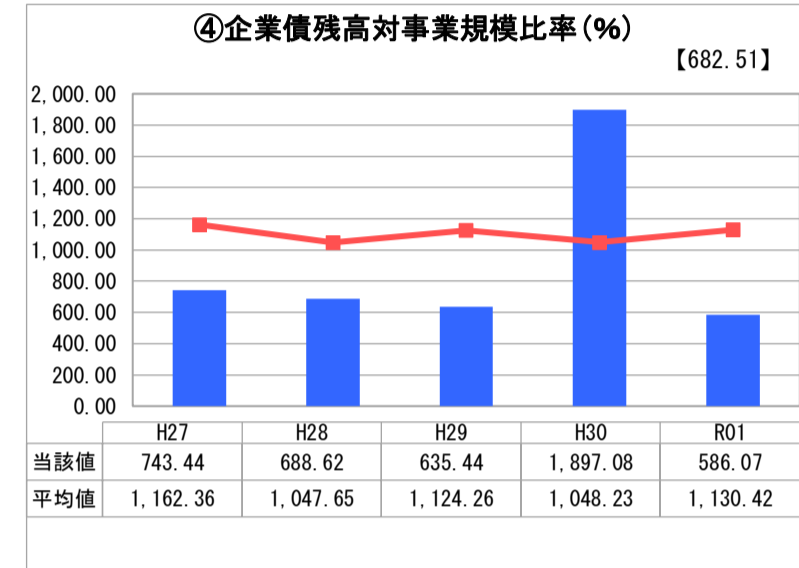
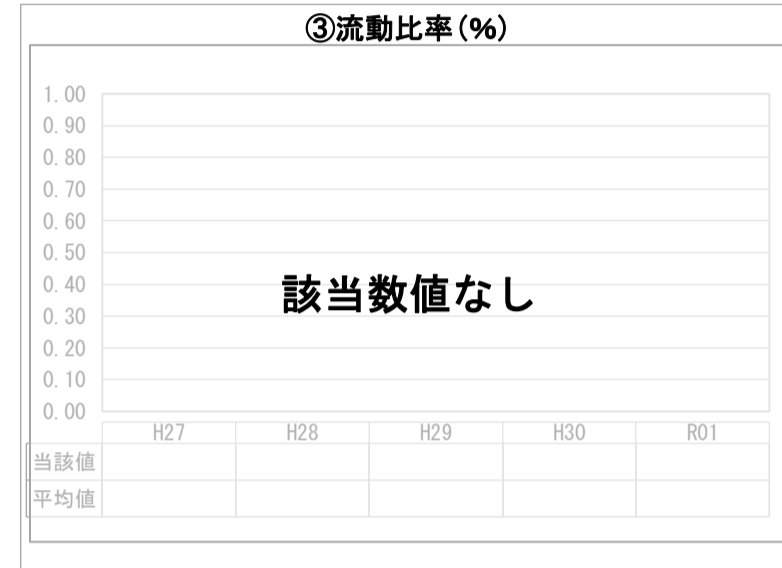
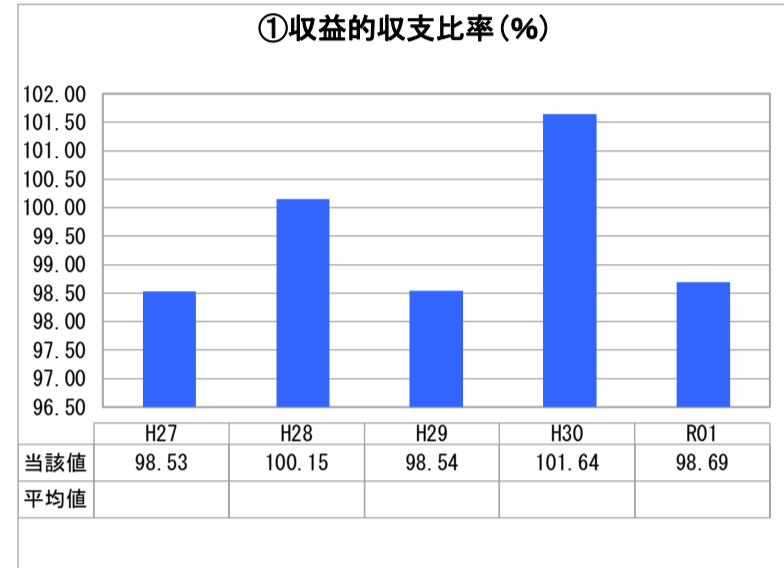
鳥取県 岩美町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	65.03	85.86	4,708

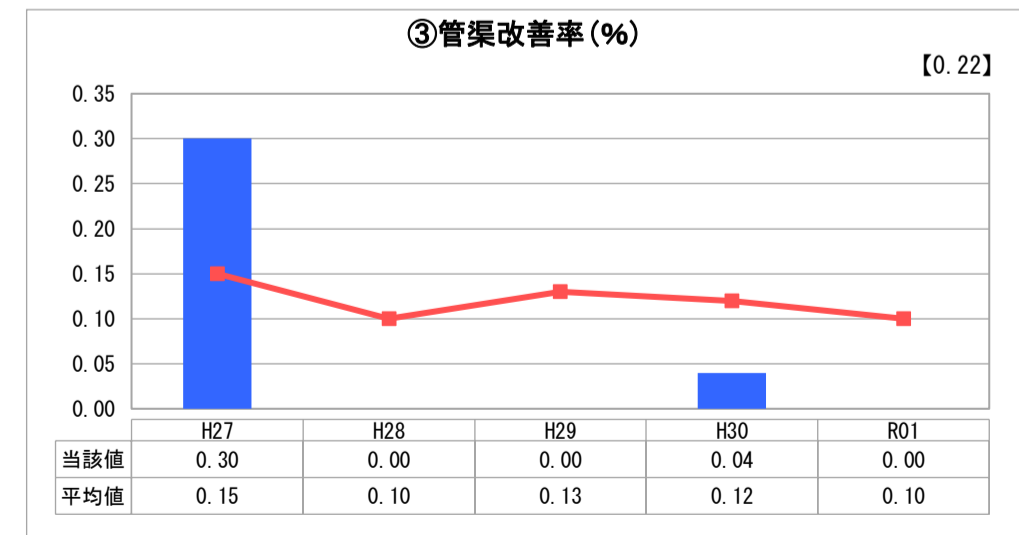
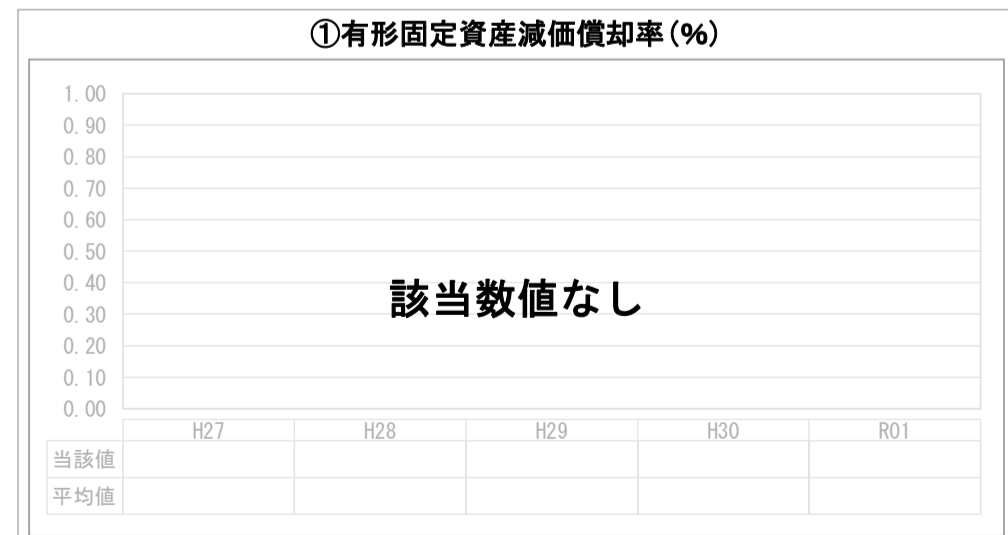
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,460	122.32	93.69
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,419	3.30	2,248.18

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本町の下水道使用料は、全国的にみて高い水準にあります。

①収益的収支比率：総収益は増加しているが費用総合計の増加が約2倍となっているため前年に比べ約3ポイント減少しました。総収益の主な変動は、有収水量の減少による使用料の減少、ストックマネジメントの策定に係る国庫補助金の増加。費用総合計の主な変動はストックマネジメントの策定委託料です。

④企業債残高対事業比率：平成30年度の正しい数字が「617.17%」で、元金を償還した分残高は減っています。しかし、令和3年度以降ストックマネジメントに基づく設備更新を企業債を財源に更新を予定しているため残高の減少については鈍化していく見込みです。

⑤経費回収率については：使用料の減少と汚水処理費の増加により12ポイント近く減少となりました。

基準外繰り入れによらず100%近いため概ね収支均衡と言えます。

⑥汚水処理原価：汚水処理費の増加、有収水量の減少により約35ポイント増加しました。

⑦施設利用率：水位は例年ほぼ横ばいとなっていますが、処理場の余剰があるため効率的な施設利用が課題となっています。

⑧水洗化率：毎年増加しているため全国平均に近づくよう事業を継続していきます。

### 2. 老朽化の状況について

大谷処理区が平成7年に、浦富処理区が平成16年にそれぞれ供用開始しました。

両処理区とも管渠の老朽化による問題は発生していません。

ポンプ等の機械設備が更新時期を迎えており、長寿命化計画に沿って計画的に更新しています。

長寿命化計画に替わるストックマネジメント計画の策定を令和元年度、2年度に策定予定です。

電波法の改正に伴い現在使用しているマンホールポンプ場の無線通報システムが使用できなくなるため、LTE回線に順次更新しています。

令和3年度よりストックマネジメントに基づき、各処理場、マンホールポンプ等の設備更新を予定しています。

### 全体総括

本町の下水道使用料は高い水準にありますが、汚水処理や投資にかかる費用を適切に反映した料金体系となっています。引き続き、基準外繰入金に頼らない独立採算を徹底し、事業運営を行う必要があります。

歳出面では、収支に影響しやすい施設更新を抑制し、資産のライフサイクルコストを縮減するため、ストックマネジメントに基づいた維持管理・投資の最適化に向けた計画を令和2年度に策定し、令和3年度以降施設更新を実施していきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。